

< 2007年度現代G P シンポジウム開催の報告 >

- ◆日時 2008年1月12日（土） 13時30分～17時00分
- ◆場所 奈良女子大学記念館 2階講堂
- ◆テーマ 地域密着型教育の成果と今後の展開
- ◆主催 奈良女子大学生活環境学部現代G P
- ◆参加者 地域関係者、一般、他大学、大学教員、学生他 約50名

◆内容

○基調講演：

「地域密着型教育の成果と今後の展開」

片寄 俊秀氏（大阪人間科学大学人間科学部
環境・建築デザイン学科教授）

各地の大学でまちなかの拠点が設置される中、いち早く関西学院大学において、三田市の商店街に「ほんまちラボ」を開設し、教育・研究活動を実践してこられた実践とその課程での発見や成果、大学と地域連携の課題、またその他多くの実践についてスライドを交えてご紹介いただいた。

○現代G P 3年間の取組報告：

3年間の取組について、その経過と事業による効果、課題などについて説明を行った。

○学生による取組発表：

授業に関わった学生が取組の報告を行った。会場からは、取組に関わった地域の方、授業を担当した教員からも意見や感想をいただいた。

- ・24時間テレビスタッフ体験講座
- ・安全・安心のまちづくり実践講座
- ・正倉院展と奈良のまちに学ぶ
- ・奈良漬プロジェクト



基調講演の様子



会場の様子



学生発表の様子

○パネル等展示：

Mhouse project gokan、24時間テレビ・奈良漬プロジェクトTシャツ、
はじまりは正倉院展スタンプ、きたまち地蔵盆調査、マスコミ報道など



はじまりは正倉院展スタンプ



展示の様子



きたまち地蔵マップ



24時間テレビ・奈良漬プロジェクトTシャツ

○パネルディスカッション：

これまで現代GPの懇談会委員として本事業推進への助言、協力をいただいていた方をパネリストにむかえ、これまで大学と共同で行った取組の紹介や大学・学生による取組の評価、今後への期待などについて活発な意見をいただいた。

◆成果と今後の事業への反映

基調講演では、「商店街は学びのキャンパス」をテーマに、数多くの実践例について紹介していただき、大学と地域の連携のあり方、可能性について知見を得ることができた。その一方で、学生の取組発表に対しては、せっかく奈良にいるのだから、一過性の体験、研究に留まらず、世界に通用するレベルの研究につなげなければいけない、との指摘をいただいた。また、パネリストや会場との意見交換では、大学、地域双方の関わりかたについての課題も明らかとなったため、今後継続的な取組を行う上で解決を図っていきたいと考えている。



パネルディスカッションの様子



閉会の挨拶